
ネクロマンサー奔走記すぴんあうとの番外編『冥王様がゆく』

闇谷 紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネクロマンサー奔走記すびんあつと的番外編『冥王様がゆく』

【Nコード】

N6809Y

【作者名】

闇谷 紅

【あらすじ】

乱世をおさめ平和な世界を作ることとを神々に依頼され異世界トリップした一人の男は『冥王』と名乗り、授けられた力を駆使して奔走する。

しかし、前途は多難で男は多忙だった。
チートじみたアンデッド作成能力を始めいくつかの力と副産物、知恵と仲間、その他諸々に助けられ目的を果たさんとする『冥王』のあまり知られざる日々。

時には仲間と馬鹿をやり、時には現実逃避や憂さ晴らし、はたまた軍資金の調達など本編には出てこない小さな逸話を今、ここに。

*本作は自作の別連載作品「ネクロマンサー奔走記」の番外編および補足的なものとなります。

本編を見ていることを前提に話が進みますのでご了承ください。

「あいさつ」(注意書き)

「あいさつ」

いつもネクロマンサー奔走記を見て頂いている皆様、ありがとうございます。

こちらは「忙しくて本編書く時間がないものずーっとお待ちさせるのも申し訳ないので」と言う理由から思いつきで始めてみる番外編になります。

基本台詞とSEのみ、他は何もなしという「ただ書きやすさのみ」を重視したスタイルにするかわり出来る限り高い頻度で更新する予定(あくまで予定)。

よって、以下の様なモノにもなります。

- ・ 本編を見てることを前提で話は展開します。
 - ・ 一話は短いモノでは四コマ漫画レベルの短さです。
 - ・ 本編書ける様な時間が出来た場合は当然本編の進行を優先します。
 - ・ シリアス分少なめ、きつとギャグっぽくなります。
 - ・ こつちの話の本編側に反映する可能性はあり。
 - ・ 自己満足分多め。
 - ・ 一応本編で説明できなかったことの補足なんかをするかも知れません。
 - ・ 投稿自体テスト段階なので予告無く打ち切る可能性もあり。
- (本編が進まなくなるなど悪影響が出た場合)

以上を踏まえた上で、暇つぶしにでもして頂ければ幸いです。

冥王様とギルド1（本編・第十三話後）（前書き）

第十二話で山賊に囚われていた村人を保護。

飼うと言つ名目で匿つことにした『冥王』だったが、生者はアンデッドと違い物いりで。

冥王様とギルド1（本編・第十三話後）

冥王「戯れに人を飼うことにしたが、ならば先立つものも必要不可欠であるう？」

参謀「確かにそうじゃの。して、どこに転送すればよろしいか？」

冥王「大都市だ。人の多いところならば仕事も転がっていよう」

参謀「なるほど。と言うことはギルドが有る都市の方が良いじゃろうな」

冥王「ほう、ギルドというと登録者に仕事の斡旋をするあのギルドか」

参謀「うむ、おそらくはそのギルドじゃの」

冥王「よかるう。ならば行く先は任せよう」

参謀「任せられよ。では」

ばしゅっ

冥王「ほう、中々栄えた都市ではないか」

参謀「戦乱の世とはいええ大国ならばこういう都市も結構あるのじゃよ」

冥王「ふむ。ならば早速ギルドへ向かうとしよう」

参謀「じゃの」

冥王「いざ冒険者ギルドへ」

参謀「いざ傭兵ギルドへ」

二人「は？」

冥王様とギルド2（前書き）

戦乱の世と言うことで『冥王』の想定していた冒険者ギルドは世界に存在しなかった。

代わりに傭兵ギルドが存在すると参謀である魔導死霊から説明を受けた『冥王は』気を取り直して傭兵ギルドへと向かう。

冥王様とギルド2

冥王「まさか冒険者ギルドが存在せぬとはな」

参謀「どちらかと言えば必要とされる人手は兵の方が多いのじゃよ」

冥王「これも乱世ゆえか」

参謀「じゃの。おお、あれが傭兵ギルドじゃ」

冥王「ふむ。しかし、今更だがこの格好で問題なかるうか？」

参謀「大丈夫じゃる。冥王殿が派手に回復魔法を行使した戦場からはそうとう離れとるし、ワシも人間の幻影を被せてカモフラージュさせて貰つとるしの」

冥王「そうか」

参謀「そういうことじゃよ。ではワシから先に入ろうかの。冥王殿はついてきて下され。御免」

ぎいつ、からんからん

受付嬢「いらっしやいませえ。ええつと、当ギルドにご依頼ですか？」

参謀「いや、ワシらはちと物いりで仕事を探しとつてな」

受付嬢「ああ。初めて見る方ですしい、と云う事は傭兵登録にいらしたんですねえ？」

冥王「そう云うことだ」

受付嬢「……」

冥王「……」

参謀「ま、まあ……そう云う訳で登録させて欲しいんじやがの」

受付嬢「あ、わ、わかりましたあ。では、こちらの用紙に必要事項

を明記して提出して下さいねえ」

冥王「っ!」

参謀「うん? どうなされた?」

冥王「……向うの机に移るぞ」

参謀「(ここでは話せぬ、と言いつとかの)……承知じゃ」

とたとた

冥王「参謀殿、名前どうしましょう? すっかり忘れてたんですが
冥王とは書けませんし(ひそひそ)」

参謀「ふむ、じゃったら本名を書いてはどうじゃの? お前さん、
周囲の者にも『冥王』としか名乗ったらんじゃろ?(ひそひそ)」
冥王「で、ですけど安易にここで本名書いて後々何かの問題になる
かも(ひそひそ)」

受付嬢「あのお、書けましたあー?」

冥王「っ?!」

冥王様とギルド3（前書き）

ギルドへ登録に来たというのに偽名も考えてなかった『冥王』。
受付嬢の催促する様な声に焦ってしまい、軽いパニックに。

冥王様とギルド3

冥王「さ、参謀殿どうしましょう？（ひそひそ）」

参謀「どうしようと言われてもの（ひそひそ）」

冥王「そもそも参謀殿はどうするんです？ 大魔術師だったんでしよう、本名だったら悪目立ちするんじゃない？（ひそひそ）」

参謀「む、盲点じゃったわ（ずーん）」

受付嬢「あのお……………」

冥王「っ！（こうなったら適当に…………えーと、名前、名前…………）」

コツコツ

冥王（こうなれば自棄だ。どうせ小銭稼ぐ為だけの名前なんだし）

カリカリ

参謀「むう……………」

冥王「参謀殿、思いつきませんか？ だったらこの名前使って下さい」

サラサラ

参謀「おう、すまんの」

冥王「待たせたな、これが書類だ」

受付嬢「はい、書けたんですね。 ええと、『魔王ニトーヘン・サ

ンカツケー』さんと『魔術師セイ・サンカツケー』さんですかあ変わった名前ですけどお……………」

冥王「姓が同じなのは親戚だからだ」

受付嬢「……………いえ、そうじゃなくてですねえ。魔王っていうのはあ

冥王「依頼人に顔を覚えて貰える様なインパクトと他者に軽んじられない事を加味したらそうなった。そもそもこの欄は自称でも構わぬのだろう？」

参謀（それ以前に思いつきり悪目立ちしそうじゃがの……………）

受付嬢「……………わかりました、魔王で良いです」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6809y/>

ネクロマンサー奔走記すぴんあうとの番外編『冥王様がゆく』

2011年11月21日11時44分発行